

平成28年度「きのさき見て歩き」第2回開催しました

9月2日（金）「きのさき見て歩き」第2回「～藤村を歩く～円山川下流域」を開催しました。



城崎大橋より下流域の眺望



城崎大橋より上流域の眺望



城崎大橋



戸島湿地



浮弁天嶋



円山川河畔を歩く

円山川は城崎に至りて海に入る、其の川口に三角洲ありて、川を不等中分す。其の中洲には田あり、畑あり。左岸の川は狭く、右岸の川は広し。而して川に連なりて海水の湾入する、之を楽々浦と云う。

『烟霞勝遊記』徳富蘇峰（大正9年来訪）

七月の日の光は水の上にも、蘆の茂る河の中洲にも満ち溢れていて、涼しいものと暑いものが私達の目にまじり合った。舟から近く見て行く青い蘆の感じも深い。私は鶏ニの方を見て言った。

「これはいいところだ。父さんはかういふところが好きさ。」

「僕も好きだ。」

と、鶏ニも言っていた。

『山陰土産』島崎藤村（昭和2年、次男鶏ニと来訪）

上田秋成、木下利玄、徳富蘇峰、島崎藤村など、文学史や教科書に登場する文人たちが城崎を訪れて書いた紀行文を読み、文人たちの目に映った城崎の風景を楽しみました。滔々と流れる円山川の豊かな流れにしばし日常の喧騒を忘れる穏やかな時間を過ごしました。

道中、目にする町並みの移り変わりや風景についての坂田先生のお話も楽しく、城崎への愛情をたっぷりいただいた「見て歩き」でした。